

ヒレハリソウ

Symphytum officinale

ムラサキ科



ヒレハリソウ。〈右〉花は渦巻き状につく

名前の由来

「ひれ(鰭)」は葉の基部が茎上に続いて下に流れ、ひれが張り出しているように見えることから、「はり(玻璃)」は青みがかった花の色から名付けられた。別名コンフリー。漢字名：鱈玻璃草

形態的特徴

高さ40~80cmで全体に粗毛があり、ざらつく。葉は先がとがった長楕円形で全縁(ギザギザがない)、葉の基部は茎に流れて翼となる。下方の葉は大きく長い柄があるが、上方の葉は小さく柄はない。花は淡紫色の鐘形で、先は浅く5裂し、下向きに咲く。上部で枝分かれした茎の先に、10~20の花がまとまってつき、渦巻き状に巻いた、かま形の巻散花序になる。

生育環境・分布

人家付近や畑のふち、道端などで普通に見られる。

分布：国外分布は、ヨーロッパ原産で、北アメリカ、ニュージーランドにも帰化している。

国内分布は、日本全土。

北海道内分布は、全道。

生活史

開花時期：7~8月。開花までの年数：不明。寿命：多年草。

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

- 明治年間にコンフリーの名で動物の飼料として導入された。その後、長寿の人が多いロシアのコーカサス地方で食べられているコンフリーが注目を浴びた。健康商品も開発されたが、その有効性はまだ科学的に証明されていない。
- 薬用として根や若葉が下痢止め、貧血予防、出血性胃腸

類似種と見分け方：ジギタリス(猛毒の観賞植物)。

コンフリーの葉は鋸歯(ギザギザ)がなく両面に毛が密生してざらつくが、ジギタリスの葉には細かい鋸歯があり、毛はなく滑らか。また花はコンフリーでは淡紫色で数個ずつがひとまとまりになり、花がつく柄がやや下方にしなるのに対し、ジギタリスではまっすぐ伸びた茎上に鮮紅紫色、まれに白色の花を多数まとまってつける。

十勝地方では、人家付近や畑のふち、道端などで普通に見られる。しばしば群生する。



ヒレハリソウ。葉にはヒレのように、葉から茎に流れる「翼」がある

疾患、打ち身、皮膚病などに用いられる。葉はビタミン、ミネラル類が豊富で、若い葉はてんぷら、おひたし、あえものなどにして食べられる。

■コンフリーと似た、観賞用に栽培される有毒のジギタリスがある。コンフリーと間違えて食べて死亡した例がある。

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期				■								

参考文献

「日本帰化植物写真図鑑」清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七 全国農村教育協会 2001

「北海道帰化植物便覧 2000年版」五十嵐博 北海道野生植物研究所 2000

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜細亜社 2002

北海道薬草図鑑 野生編 山岸喬 北海道新聞社 1992

「新版 北海道山菜実用図鑑」山岸喬・山岸敦子 北海道新聞社 1992